
そんな彼の日常物語

ラグナウルフ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

そんな彼の日常物語

【Nコード】

N9215M

【作者名】

ラグナウルフ

【あらすじ】

とある特殊な学校に通う少年、さめしま 鮫島 かげろう 陽炎。
彼の周りには騒がしくも楽しい仲間達がいて、そんな日々が彼の日常になっていた。
いつも通りの日々、いつも通りの道。

しかし、そんな彼に一通の手紙が届いた。

手紙の差出人は【山代 龍司】。

過去に分かれた親友の名がそこには刻まれていた。

その手紙から彼の日常は少しずつ変化し始める。

第一章 日常

「何が間違っていて、何が正しかったかなんて分からない」

「だからこそ……人は自らが正しいと思う道に進むんだろ？」

「ああ」

二人の間に重苦しい空気が流れる。

一人は小柄な少年、もう一人は小柄な少年とは正反対にとっても大柄な少年。

少年達は夕日の川原でただ座り込んでいるだけ。年相応に石を投げたりして遊んでいるわけではない。

そもそも、彼らにはそのような遊びが遊びに思えない理由があるのだが

「お前はお前が正しいと思うことをした。ただ……それだけだろ」

「うん」

「大丈夫さ。お前は俺が唯一認めた友達だ。たとえ引越したってうまくやっていけるさ」

「うん……」

小柄な少年の目に涙が光る。大柄な少年はそれを見ないようにまっすぐと太陽に向き合っている。

それが 不器用ではあるものの、彼なりの優しさだった。

「ありがとう」

小さくつぶやかれたその言葉。その言葉を聴いて大柄な少年は目を閉じた。

思い出しているのだろう。

少年達の過ごした日々を。

その楽しかった日々を。

「じゃあ……な」

大柄な少年が立ち上がったが、小柄な少年はいまだに座ったまま。それでも二人は通じ合えた。

「絶対にまた会うときが来るさ。だって俺たちは」

大柄な少年の言葉が風に乗って小柄な少年の耳にまでやってくる。涙を流したまま小柄な少年は大柄な少年の言おうとしている事が分かった。

だから二人していつものように声を八もらせる。

「特別な……存在なのだから」

その次の日、小柄な少年の引越しによって大柄な少年と小柄な少年は引き裂かれてしまった。

小柄な少年は新しき新天地で戸惑い、大柄な少年は小柄な少年と会えるその時を楽しみにして。

そんな日々が5年ほど続いて

それでもまだ二人は 再会していない

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9215m/>

そんな彼の日常物語

2010年10月13日21時30分発行